

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年6月14日

No.26

## 2012年度夏季手当妥結！

# 基準内賃金×1.61ヶ月

(23年度黒字決算及び震災復興、自然災害に対する労苦に報い0.03ヶ月分含む)

### ～2012年度夏季手当交渉最終報告～

中央本部は、夏季手当満額獲得に向け断続的に交渉・折衝（トップ交渉を含む）を行い、職場からの闘いと結合し最後まで要求実現に向けて粘り強い闘いを展開してきました。その結果、本日17時55分より夏季手当の最終交渉に臨み、席上会社は、基準内賃金×1.61ヶ月分(平成23年度の黒字決算及び震災復興、自然災害への全社員への労苦に報い、基準内賃金の0.03ヶ月分を含む)とする回答を示しました。

回答にあたり会社は、①平成23年度は、震災や度重なる自然災害の影響により5000本近い運休を出しながら、社員一丸となって安全・安定輸送に努めた結果1.5億円の経常利益を出すことが出来た。②欧州の債務危機による世界経済の減速や円高により、今後も厳しい経営環境が続く見込みで運輸収入の確保に向けて取り組んでいるが、今年度も対計画を下回る厳しい状況である。③平成24年度は「飛躍」の2年目として「安全の確立」と収入確保に向けた営業施策の展開を図り、将来に向けて経営自立の基盤づくりを行っていく。④当社の置かれている厳しい現状を理解されたいと考え方を示しました。

これに対し中央本部は、①今次交渉は「慌ただし中」での交渉となった。②収入が計画通りにいかない状況の中で、総輸送量減、コンテナ輸送も減、コンテナ収入も1000億円を切るというトリプル大台割れという事態である。経営陣は、臆を決して収入拡大に努めるべきであり、計画達成に向けて責任を持つべきである。③我々は25年が経過し新たなスタートをきったと認識している。この額では組合員は納得しないが取り巻く状況も認識している。経営陣が責任を持って収入拡大に向けて取り組むことを強く求める。④また、要員需給、安全問題等早急に解決すべき課題が山積している。具体的な対策を講じるために早急に労使協議を行う事を確認して夏季手当について妥結することとしました。

組合員の皆さん。本日の常駐体制大変お疲れ様です。中央本部は、5月16日の申し入れ以降、手当獲得のために精力的に取り組んできました。職場闘争の積上げによって手当抑制を崩すことができました。今次夏季手当交渉は来年度の「白紙ダイヤ改正」を含めJR貨物の将来を見越した交渉ともなりました。

最後まで職場からの要請行動・FAX行動・激励行動・炊き出しなど創意工夫した取り組みに感謝を申し上げます。今後、会社の経営自立に向けたコスト削減一辺倒の経営姿勢を糾し、将来を見据えた礎を築いていくために、職場と雇用と生活を守るために具体的な闘いを職場から進めていきます。中央本部はその最先頭で奮闘することを明らかにし、夏季手当交渉の最終報告とします。

以上